

## ＜中国剣道事情＞

～東倉 雄三 渉外部会 中華圏担当～

1996年に、北京で中医薬を学んでいたスイス人ゴディ・レンツ氏(当時、三段、2001年に五段)によって設立された「北京剣道友会」が、中国大陸で中国人が剣道を学び始めた最初でしょう。現在まで、延べ500人を超える剣士が学び、約100人が今でも修練を続けており、有段者を多数輩出しています。



北京で行われた昇段審査の参加者

現在 中国全土での剣道人口は、推定で約1万人。剣道を始めるきっかけは、日本のアニメ、漫画、映画等で日本のサムライを見て興味を持ち、姿に憧れるケースが多いとの事。最初の単調な基本の繰り返しでやめてしまう人もいるが、続けるうちに、単なる叩き合いではなく、心の修行を理解する人も増えつつあります。



2009年ブラジル大会 中国チーム

初めて世界大会に出場したのは2009年のブラジル大会(上の写真)。「世界の工場」をキャッチフレーズに急成長する中国経済に「チャイニーズドリーム」を目指して集まった世界各国の人々の中に5段以上の高段者の日本人赴任者も数多く集まった。私もその時期、日本人会剣道同好会会長を務めさせて頂き、同時に中国剣道連盟の世界剣道連盟加盟に奔走。中国体育総局(日本の文科省)の面接合格後、中国国家チームのヘッドコーチとしてブラジルへ行きました。

今回 中国チームの引率代表で来られているユー・ディン(于汀)さんは、現在の中国剣道連盟の会長。2009年ブラジル大会、2012年イタリア大会に選手として出場した剣道家。

今回の参加者に「なぜ剣道を始めたのか?」「剣道に期待しているもの」等を、聞きました。

■劉天猷さん(リュウ・ティエンヨウ)(上海市)

古代武士の文化に対して、非常に興味を持ったので、剣道を始めた。まっすぐな剣道を出来る様生涯稽古に励みたい。現在 上海華剣閣 教練助手。

■刁素さん(ディアオ・スー)(揚州市=厚木市と姉妹都市)

元々剣道には興味があったが、各地の剣友と交流が出来ることにも期待していた。現在 揚州剣友会 会計。

■傅劍氷さん(フー・ジェンピン)(南京市)

父親が中国の伝統武術を習っていたこともあり剣道を始めた。大学時代に偶然に見た剣道に興味津々、自分の欠点を剣道修行で直したいと感じた。剣道は 人生そのもの。現在 中国剣道連盟の役員として、上海及び、西部中国地区の管理代表を務めている。

■覃舒寧さん(チン・シューニン)(大連市)

最初は、身体を鍛え上げるスポーツだという認識でいたが、だんだん稽古をしているうちに、剣道は文化的な背景もあり、非常に魅力を感じ始め、稽古を続けた。子供の指導員となり、より多くの子供達に剣道を好きになってもらう様、指導を継続している。

■刘悦さん(リュウ・ユエ)(北京市)

最初は、健康の為に剣道の練習を始めた。専門的に剣道を学んでいくうちに、剣道は生涯目標を掲げられる一生の修行であることを察し、沢山の中国人にも剣道良さを知ってもらいたいと感じている。来年、四段に合格したい!

追記:

中国で剣道を行うには、まだまだ一般の中国人には非常に高い、防具の購入が大変です。また人口の多い中国は、体育館確保が難しく(人気のあるバドミントンや卓球との戦い!)場所代も安くありません。日本人の感覚では「乗馬」を趣味にしているのと同じくらいの感覚だというのが、東倉が駐在中に経験した諸々の価値観を加味した認識です。